

降圧薬の注意点

- 十分な透析量が確保されていることが前提条件で、適切なDWが達成されても降圧が得られない場合に降圧薬を使用する
- 1週間単位で評価し、家庭血圧も参考にする
- 以下の点に留意する

- ✓ 心肥大抑制など臓器保護効果がある降圧薬を優先する
- ✓ 作用時間の長短を組み合わせる
- ✓ 透析性と血圧変動を考慮して服薬時間を決定する
- ✓ 透析後に服薬する場合は帰宅後に過度の降圧がないか注意する
- ✓ 降圧が不十分な場合は患者の服薬アドヒアランスを確認する

降圧薬について

種 類	特 徴
ARB/ACE阻害薬	レニン・アンジオテンシン阻害薬は左室肥大抑制効果など心血管系保護効果が明らかであり、透析患者でも第一選択薬となる 特にARBは胆道排泄が主体で透析性もないので投与しやすい
β 遮断薬	心筋梗塞の既往例や有意な冠動脈疾患を有する例で積極的な適応となる
カルシウム拮抗薬	全死亡や心血管障害死亡を有意に減少させた報告がある
中枢性交感神経作動薬 α 遮断薬	起立性低血圧など副作用も多いことから2次的選択薬となる